

新年度に向けて支援状況を振り返ろう

支援の必要な児童生徒のよりよい成長発達には、成長に合わせて切れ目のない適切な支援をしていくことが大切です。新年度になり、児童生徒に関わっていた担任等の教員が変わると、支援が途切れがちになることもあります。児童生徒によりよい支援を継続していくには、学年末を迎えたこの時期の振り返りが大切です。そこで今回は、この時期に必要な振り返りの視点を紹介します。



この時期に必要な振り返りの二つの視点

1 効果のあった手立てを整理しましょう

- 支援を始めた当初、児童生徒の抱える課題は何だったのか
- 年度末に向けてどのような目標を設定していたのか
- どのように役割分担をして、具体的にどのような支援をしてきたのか
- 児童生徒にどのような変容が見られたのか

※今後の支援策も併せて検討してみましょう

ポイント

- 何が要因で効果的な支援につながったのか理由も併せて考えましょう
- 小さな変容も大切にしましょう
- 関係機関の見立てと支援状況を整理しておきましょう

2 客観的事実を整理しましょう

- 月別の欠席・遅刻・早退の状況
- 家庭生活の様子や家族との関係性
- 授業中や休み時間等の様子、友人関係
- 本人の性格、成績、進路希望等



※リソース（本人のよい点、うまくいっているところ、支えとなるもの、好きなこと 等）も整理しておきましょう

ポイント

- 卒業までの記録が蓄積できるよう、引き継ぎシートや、個別の教育支援計画等を活用しましょう

これらの視点を大切にして振り返りましょう。

新年度、支援の必要な児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、
振り返りで整理した情報を確実に引き継ぎましょう！